

Japanese Graded Readers

レベル別



日本語多読

ライブラリー

にほんごよむよむ文庫

レベル **2** vol.3 13

ごん
狐 ぎつね



原作 = 新美

簡約 = NPO法人

挿絵 = 石川え

監修 = NPO法人

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

ごん^{ぎつね}狐

原作（げんさく）：新美 南吉（にいみ なんきち）

簡約（かんやく）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

挿絵（さしえ）：石川 えりこ（いしかわ えりこ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル2] vol.3

ごん狐

2008年3月27日 初版 第1刷 発行

原作：新美 南吉

簡約：NPO 法人 日本語多読研究会

協力：國保 妙子 (日本語教師)

作画：石川 えりこ

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：山中 いっとく / 小金澤 篤子

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：株式会社アスク 広報宣伝部

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-digital.co.jp

http://www.ask-digital.co.jp/tadoku (『にほんご よむよむ文庫』公式サイト)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-672-8

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

ごん^{ぎつね}狐

原作 (げんさく) : 新美 南吉 (にいみ なんきち)

簡約 (かんやく) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

挿絵 (さしえ) : 石川 えりこ (いしかわ えりこ)

監修 (かんしゅう) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

ごんは、子どもの狐です。山の中に住んでいます。

お父さんもお母さんも、いません。

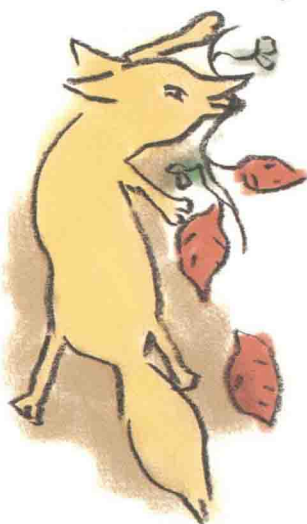
ごんは、ときどき村へ行つて、いたずらをします。

畑に入つて野菜をとつたり、家の中に入つて

果物をとつたりします。

村の人は、そのいたずらを見て怒ります。

ごんは、それがおもしろいのです。



ある秋あきのことです。

昨日きのうもおとといも、雨あめでした。

ごんは、どこへも行くことができませんでした。

でも、今日きょうは、いい天気てんきです。

ごんは、思おもいました。

——よかった！

今日きょうは、散歩さんぽができるぞ！——



ごんは、川のほうへ歩いて行きました。

川の中にだれかいます。

古くて汚い着物を着ています。

—— あれは、兵十だ。

何をしているんだろう——

ごんは、兵十の近くへ静かに歩いて

行きました。兵十は、川の中で

魚をとっていました。

兵十は、とった魚を入れ物に入れて、

木の下に置きました。



そして、また、魚さかなをとり、川かわの中なかに入はいって行いきました。

ごんは、木きの後ろうしろから入れ物いれものの中なかを見みました。

中なかには、魚さかながたくさんいます。

ごんは、いたずらがしたくなりました。

ごんは、入れ物いれものの中なかの魚さかなを手てでとって、

一匹いっぴき、一匹いっぴき、川かわの中なかへ投なげました。

ドボン、ドボン、ドボン、ドボン、ドボン





入れ物いのものの中なかは、もう、長いながうなぎ
だけです。

でも、ごんは、うなぎをて手で

とることができませんでした。

だから、入れ物いのものの中なかに頭あたまを入れて、

口くちでとりました。

そのとき、兵十ひょうじゅうが、大きなおお声こえで

言いいました。



「どろぼう！」

ごんは、びっくりして、

山のほうへ走って行きました。

ごんは、家に着くと、

うなぎを家の外に置いて、言いました。

「ああ、びっくりした。

でも、おもしろかった！」



それから、十日ぐらい後のことです。

ごんは、村を散歩していました。

兵十の家の前に来ると、人がたくさんいます。

——何だろう。何があるんだろう——

女の人たちが、いつもよりいい着物を着て、

忙しく働いています。

——ああ、葬式だ。だれかが死んだんだな。

だれが死んだんだろう——



ごんが^み見ていると、みんなが家^{いえ}から出^でて来^きました。
白^{しろ}い着^き物^{もの}を着^きた兵^{ひょう}十^{じゅう}がいます。



いつもは元気な兵十が、今日は悲しい顔で、

下を見て歩いています。

——あ、兵十のお母さんが死んだんだ……——





ごんは、家へ帰りました。

そして、思いました。

——兵十のお母さんは、病気だったんだ。

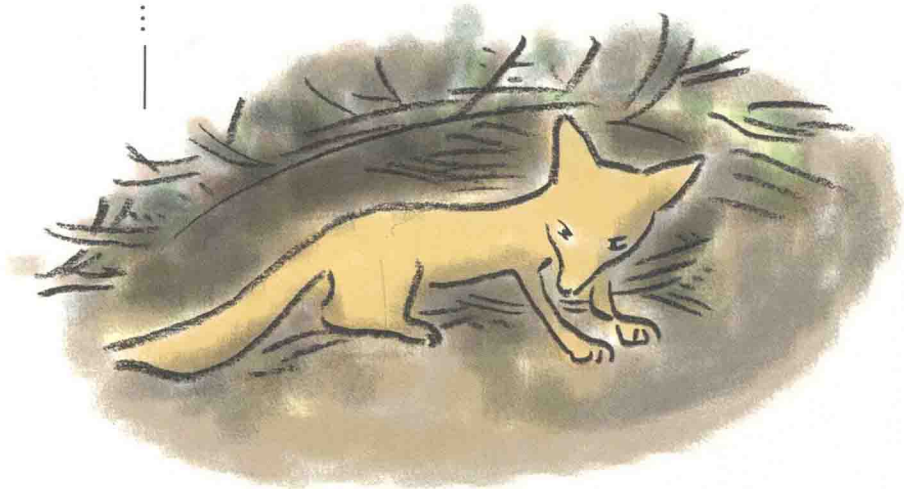
あの日、兵十は、お母さんにあげる魚を

とっていたんだ。その魚をおれは……。

お母さんは、うなぎが食べたいと

思いながら死んだんだ。

ああ、あんないたずらをして、悪かったなあ……——



三さん

つぎ
ひ
次の日、ごんは、兵十の家へ行きました。

とお
ひょうじゅう
遠くから、兵十の家のほうを見ると、

ひょうじゅう
いど
兵十が、井戸のところで、野菜を洗っていました。

ひょうじゅう
いま
兵十は、今まで、お母さんと二人で暮らしていました。

かあ
でも、お母さんは、もういません。

おも
ごんは、思いました。

おな
おれと同じだ。兵十も一人だ……





そのとき、どこかで、魚さかなを売うる声こえが聞きこえました。

「さかなー、さかなー。おいしいよ、安やすいよ！」

近ちかくの家いえのだれかが、「魚さかなをくください！」と

言いいました。

魚さかな売うりの男おとこは、魚さかなの入れ物いれものを道みちに置おきました。

そして、魚さかなを持もって、その家いえへ入はいって行いきました。